

今までの水流実態解明プロジェクトでわかったこと。

【資料】 多摩川の河川流量、河川水質

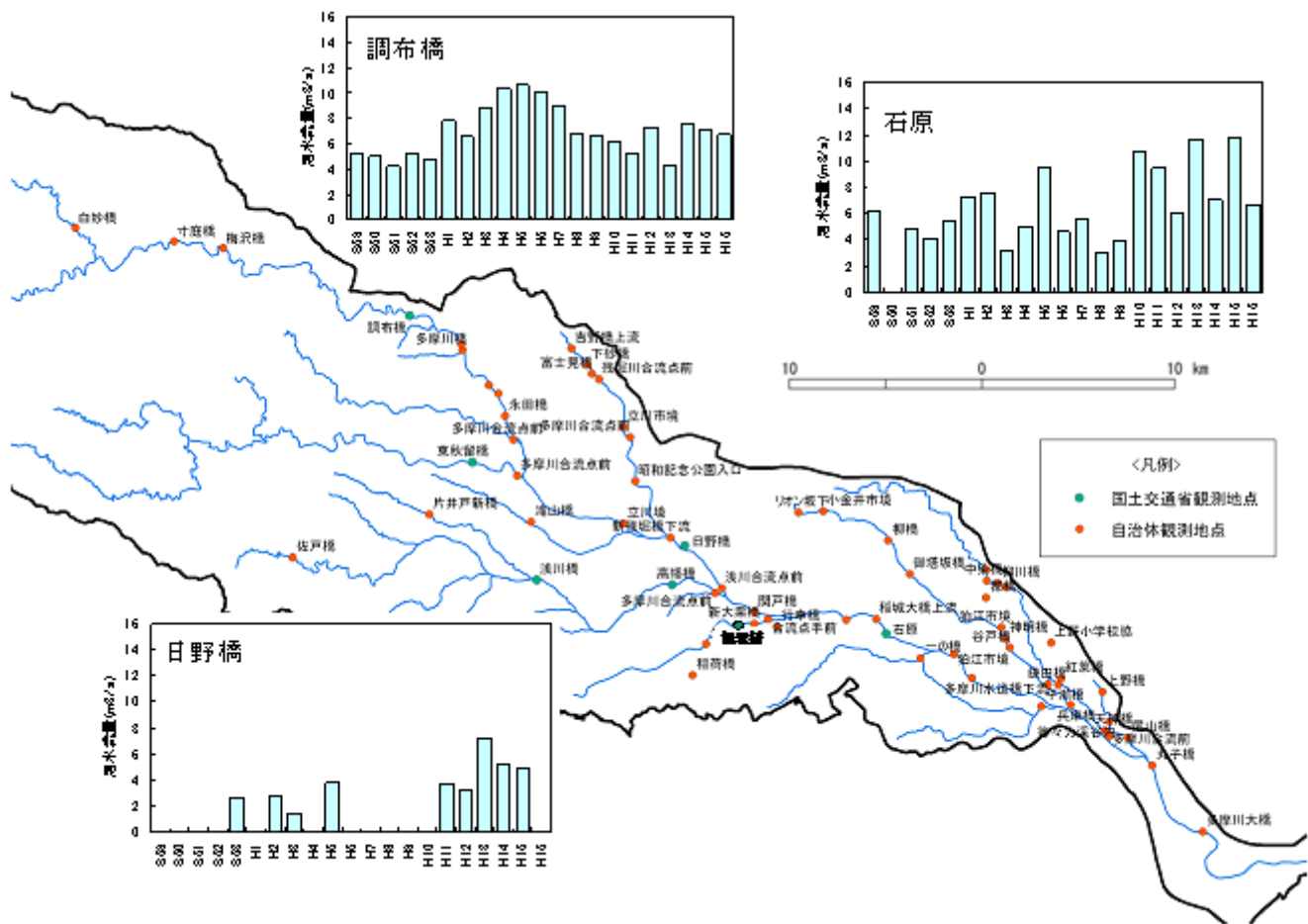
河川流量

多摩川中下流域の急激な都市化により雨水の地下への浸透が減少するなど保水機能が低下し、小河川の水量が著しく減少した。

また、多摩川では羽村取水堰等で大量に取水されるため、堰上下流の水量に不連続が生じている。羽村取水堰での取水後の河川流況は、秋川、浅川等の支川及び下水処理場からの流入水により主に構成されている。

このため、流域での水使用量の増大に伴い、下水処理場を通じて多摩川へ放流される水量が増え、近年石原地点の流量は増加傾向にある。

一方、野川・仙川や残堀川では、川に水が流れないときもあります。





河川水質

多摩川の水質については、昭和30年代後半から流域の工場立地や宅地化の進展に伴う都市排水の増加により悪化の一途をたどり、昭和40年代以降はBOD75%値が常に環境基準値を満足できない状況が続いた。

昭和50年代後半からは下水道の整備、河川管理者による河川浄化施設の整備などに積極的に取り組んだ結果、平成9年には、ほとんどの区間でBOD75%値が環境基準値を達成している。

河川流量に占める下水処理水の割合が高い多摩川原橋や支川野川の兵庫橋及び下水道整備が比較的遅れている支川浅川の高幡橋等については、環境基準が達成されていないが、全般的に水質は改善傾向にある。

